

女性が輝ける場所
農業の楽しさを伝えていく

女性一人で農業
こだわりがあるからこそやれる

椿 市でいちじく栽培を行う和田恵美子さん。介護施設で社員として働いていました。お父様が亡くなられたことをきっかけに家業を継ぎました。令和5年の女性の基幹的農業従事者数は、前年に比べ5.9%減少。年々減少傾向にあります。女性が農業を生涯にするには、家事・育児・介護等との両立が大きな課題となっています。和田さんはお父様が亡くなられたあと、お母様と2人でいちじく栽培を開始。その後、8年前

福岡県
女性農村アドバイザーに就任

お父様がいちじく栽培を始めたのは、和田さんが高校生の頃。当時、収穫の手伝いはしていたが、年間を通しての作業等は全く知識がなかったそうです。そんな和田さんにもまた、分からないことがあったはずに県の普及指導センターやJJAに相談。「講習もたくさん開催してくれるけれど、すぐに現地で指導をして頂く合せを、すくなく現地に参加し、技術を習得する」。積極的に講習に参加し、技術を習得する。



得していきま
た。転機は昨年
度。県では、農
業経営・農家生
活の向上に意欲
的に取り組む女
性農業者を「福
岡県女性農村ア
ドバイザー」と
して認定してい
ますが、そのア
ドバイザーに就
任したのが、市
内では和田さん
を含め2人の人
み。まだまだ自
分も修行中。い
ちいちのことし
か分からない。
今年はご近所

の方々の協力もあり、裏の畑で野菜作りにもチャレンジしようと思っている。自分自身が色々な栽培技術を習得し、それを若い世代へ広めていきたい。」とアドバイザーとしての表情も見せてくれました。

もう一つの顔、
母として・・・。

3 さんのも5人。さらにこれからお孫さん、お孫さんが3人増えるそうです。「私自身、3人の子育てをしながらくれめに出るために、母が助けにくれた。母の手助けがなければ、勤まっていたらどうかと思う。子どもたちも働きながら子育てをしている。母が助けてくれたように、私も子どもたちのサポートをしてあげたい」と語ってくれました。続けて、「農業は体力的には大変だが、農薬以外は自分で時間をコントロールできる。孫が急に熱を出したとき、施設勤務のときは急に休みますとはなかなか言えなかつた。今はそれが自由でできる。子どもの手助けができる、孫の世話をしてあげられる。そういう幸せを農業を始めたことと実感している。」と話してくれました。それぞれ時間軸や価値観は違いますが、和田さんは農業を始めたことによって、自分らしい幸せを見つけていました。




▶福岡県女性農村アドバイザー事業

地域農業の振興や、農村の活性化に繋がる活動を支援するため、農業経営、農家生活の向上に意欲的に取り組む女性農業者を「福岡県女性農村アドバイザー」として認定しています。認定後は若手の育成や指導を行い、農村の活性化を促進します。

試行錯誤、それが農業の最大の魅力！

大 正時代から続く新田原の果樹農家。その分家の2代目が、永永豊子さん。永永さんは4人姉妹の3番目。両親の後を継ぎ、「主」と桃やいちじく、ぶどうを栽培しています。小柄な永永さんですが、新田原果樹部会では婦人部役員としてアグレッシブに活動されています。永永さんの農園では、さくひめやあかつき等7品種をメインに栽培。そのほか数種類をカタログで色や味の特徴や名前を見て追加しています。「カタログを見ると、どれも美味しそうが目移りしてしまう。中でも、最



春は桜を、夏は桃を、
楽しみにしてもらいたい。

近のお気に入ります。色鮮やかなルビー色の「あまとう」。「と目を輝かせながらお話ししてくれました。」「桃栗三年柿八年」と昔から言われていますが、果樹は野菜と違い、収穫できるようになるまで時間を要します。新しい品種を植えたとしても、すぐに収穫できるわけではありません。また、その土地に合うか、気候に合うかということも試してみなければいけません。「やってみたいことには分かるかもしれませんが、このために自分の出たお金のほうが最も嬉しい。甘みがあり、自分への好みのものが収穫でき、お客様から美味しかったと言ってもらえたときは達成感でいっぱい。」と、桃栽培の魅力を語ってくれました。

農

農 繁期には、岡山県の姉夫妻や市内に住む鳥子夫婦が収穫のサポロに來ていています。北九州市の義理の娘さんにも来ています。北九州市の桃は、スーパーで買ふものとは、「新田原の桃は、スーパーで買ふものとは全く味が違う」いぜひ、たくさんの人に食べてもらいたい。」と作業の傍ら、笑顔でお話ししてくれました。桃は品種により、色や大きさ、硬さ、収穫時期等が異なります。そのため、長い期間、色々な種類を並べ置くことが出来ます。シーズンでも終わりと肩を落としてしまうと、遅い時期に楽しめる品種が出てくることもあります。皆さんもぜひ、自分好みの桃を探してみてください。新田原において、長きにわたる桃の栽培を担う末永さん。「春は桜を待ち遠しく、来しみに思うように、夏はこの新田原の桃を来しみにしてもらいたい。そして、来しみにしてももらえるような桃を作り続けたい。」と優しい眼差しで熱意を伝えてくれました。



私たちの食と農を
もつと身近に

今回の特集では、「行橋の農を護り継ぐ者たち」として果樹栽培の担い手3人をクローズアップしました。会社勤めでは得られなかった幸せや、農家からしか味わうことができない魅力を教わりました。そして、皆が団結し、行橋の果樹農家を絶やさないよう努力する力強い姿も見られました。私たちの体は食べ物から作られています。このクローズアップを通して、消費者である皆さんと生産者の距離が近くなること、「食」への関心、そこからさらに「農」への関心が深まっていくことを願っています。

今

人をクローズアップしました。会社勤めでは得られなかった幸せや、農家でしか味わうことができなかった魅力を教わりました。そして、皆が団結し、行橋の果樹農家を絶やさぬよう努力する力強い姿も見られました。私たちの体は食べ物から作られています。このクローズアップを通して、消費者である皆さんと生産者の距離が近くなること「食」への関心、そこからさらに「農」への関心が深まっていくことを願っています。

行橋 **旬** の果樹はこちらで

▶京築恵みの郷 ゆくはし店

所 大字今井1258-2

22-8057

日 8:00~18:00

休年中無休 (9/30、1/1~4、3/31を除く)

▶採れたて市場

所みやこ町勝山箕田1302

問32-2931

受付 8:00~18:00

休年中無休 (9/30、1/1~4、3/31を除く)

▶ 国府の郷

所みやこ町国作464

問 33-6620

 8:00~18:00

休年中無休 (1/1~4を除く)